

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390900052		
法人名	医療法人 福寿会		
事業所名	グループホーム高梁		
所在地	岡山県高梁市落合町阿部2215-3		
自己評価作成日	令和4年3月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jigyosyoCd=3390900052-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile (ワンモアスマイル)
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7
訪問調査日	令和4年4月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく開放的で日当たりの良いリビングと、季節になればホームから山桜が見物出来たり雪景色を眺めたりと季節の変化を間近に感じられる施設です。日中は出入口は基本解放されており、コロナ禍以前は職員と共に散歩されるなど入居者ご自身のペースで過ごされておりました。そんな中、入居者の話をよく傾聴し個々のニーズに応えるよう努めています。安心と安全を考え、日常生活が落ち着いたものとなるようにケアを行っています。ホームが所謂「第二の我が家」として機能出来るよう、在宅の頃の生活の様子をご家族に伺いそれに沿える対応方法を日々検討、実践しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の個々のニーズに合わせた支援に努めている。全介助が必要な利用者にもトイレで排泄してもらいたいと考え、二人介助で誘導している。病院受診時は、三人介助で入居者を車に乗せ、病院で家族と待ち合わせ、職員の一人が残り受診支援をし、終了後職員が迎えに行っている。両ユニットのリーダーの関係は良好で、コロナワクチン接種の際、大型車を運転できる職員が、両ユニットの利用者を病院まで連れていくなどお互いに助け合いながら支援している。また、リーダーと職員の関係も良好である。男性の入居が決まった時、男性の支援をした事がない職員が不安に思い、リーダーに支援方法について相談した。リーダーが丁寧にアドバイスしたおかげで、職員は安心して介助することができた。このように不明点があれば、相談し、安心して支援ができるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を共有すべく管理者、共同生活住居責任者(ユニットリーダー)、職員間で話しをして検討・改善を試みている。	「安心で安全な心楽しい日常生活を提供します」を理念に掲げ、転倒防止に努めながら自由に行動してもらっている。コロナ禍で外出が制限されている為、レクリエーションに力を入れ、利用者に日々楽しさを提供している。	理念を玄関に掲げているが、全ての職員に周知されていない。理念の共有を図って欲しい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の業者を利用したり、運営推進委員として地域の方にも参加頂いている。	コロナ禍になる迄は、納涼祭の実施や子ども神輿が訪れたりする等、地域の人達と交流する機会があった。現在、地元の豆腐屋、パン屋、食品卸業者との交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで状況を説明したり、地域ボランティアなどを受け入れ相互交流を図っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近所の方、市職員、介護相談員に参加頂き二か月一度の割合で開催の状況であったが、現在コロナ禍にて資料送付のみでの報告をしている。	コロナ禍になる迄は、地域の人、家族、行政など複数の人で開催していた。現在は、委員に議事録と併せて評価・要望・助言が記載できる書類を郵送し、意見をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話連絡等にて意見を頂いたり、業務報告などを行い協力関係を築くようにしている。また行政への業務相談などについても適宜実施している。	運営推進会議の議事録を送付し、事業所の実情を伝えている。去年サテライト型事業所の施設区分を変更する際は、密に行政と連絡を取り、指導を仰ぎながら取り組んだ。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で設定された身体拘束委員の検討会について適宜実施中。また、ホームの施錠は行っておらず常に開放的な環境の提供をしている。	百姓をしていた利用者が、田んぼや畑が気に入り、自宅に戻りたいとの訴えがあった。計算問題や塗り絵等をしてもらったり、思いを聞いたりすることで少しでも気が紛れるように対応している。下肢筋力が衰えている利用者が増えている。動こうとする時は、見守りをしながら転倒防止に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員ミーティングなどで折々に話をしたり研修を行っている、利用者の状況変化には注意を払って観察している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員ミーティングで折りに触れ話をしたり。研修を行っている 今後、外部の研修など参加を促している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が行っており、気がついたこと、ちょっとした疑問も言って頂き説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者のしたいこと等、意見を日々お聞きしている。またご家族については面会時に話をしたり、電話連絡などを行い連絡をとっている	入所間もない利用者が、要望を妹に伝えていたが、現在は直接職員に伝えてくれる。先日も散髪したいという要望があった。訪問美容に来てもらおうかと尋ねると、リーダーに切っ掛け欲しいと答えたため、リーダーが散髪した。	面会制限の為、写真等を家族に送付し利用者の日頃の様子を伝える機会を作って欲しい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	責任者は日常的に話をしやすい場面を作ったり、個人面談を行い話をし、対応を行っている。その意見などを会議等で代表者へ伝えよりよい事業所運営となるようにしている。	日頃からコミュニケーションを図るように心掛け、意見や提案を聞くようにしている。職員が考えたレクリエーションの小道具を、利用者と一緒に作成し楽しんでもらっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	責任者としてできる範囲内で、職員との対話等を行っている。またその内容を会議等で代表者へ伝えよりよい就業環境となるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を作り出来るだけ多くの職員に研修参加を促している。未経験者などは経験ある職員がついて現場で教えるなどOJTを行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	二か月に一度の割合で地区事業所での会議があり他事業所と交流を行い、情報交換等を行い 質の向上に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを十分に行い、直接利用者と会話をして気持ちを把握するように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、要望等を言いやすいように努めている。細かい話にも耳を傾けいい信頼関係が築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前面接時ご家族や担当のケアマネージャーともよく話し合い、サービスの利用を検討行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者、被介護者ではなく共に生活者として同じ土俵に乗るように努めており、人間対人間の関係になるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族への電話連絡時には、実状をお伝えし、支援についてご意見を伺っている。また面会、外出外泊は現在コロナ禍にてやむを得ず制限させて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	基本的に面会時間は設定されているも、以前は特に制限は設けず自由に来訪して頂いていたが、現状は制限中。	衣類の持参や利用料の支払いに家族が来てくれる時は、3回目のワクチン接種を受けていれば、玄関先で短時間の面会を行っている。また、家族から電話があれば、利用者と電話を替わるなど家族との時間を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員で取り組めることは、共同作業になるように配慮している。また個別の対応もできるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来ることはさせて頂いている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や何気ない言葉や様子などから、本人の意向をくみ取るようにしている。	リハビリテーションを兼ね体操をしているが、「体操ばかりで面倒くさい」と言われれば、カルタ等別のレクリエーションをしている。利用者から「お茶ばかりは飲めない。たまには煎餅を付けて欲しい」と頼まれれば、煎餅を付けることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等は入所前にある程度お聞きしているがよりご本人を理解する為、入所後も折にふれお聞きしている。又、家族からも電話による情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別のケースに日常の様子等記載している。申し送り時に個々の一日の様子を話し情報交換を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットごとに計画作成者かケアマネジャーが本人の様子を見たり申し送り等を聞きアセスメント、モニタリングを行い作成している。定期的な話し合いの場において個別に検討を行っている。	介護計画は、半年毎に見直しを行っている。計画作成者は、職員や家族から提案や要望を聞き取り原案を作成し、ケアマネジャーに確認してもらう。今の現状に合致した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	思いや言動をそのまま記録をしている。スタッフ会議や申し送り等、情報は共有し改善に向けて話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当ホームで、できるサービスについては柔軟な対応が行えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源を把握するために地元職員の確保等行ったりインターネットで情報の収集を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療についてはご本人、ご家族の要望を聞きながら対応している。細かなことでも、訪問や協力病院のNsに相談し、助言を得ている。	入居時も主治医の変更を勧めたりせず、利用者のかかりつけ医や希望の病院に受診している。意思疎通が難しい利用者の場合は、病院で家族と待ち合わせ、職員が付き添っている。受診後は、別の職員が迎えに来て、利用者の移乗を複数で行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療知識の習得とともに日常の気づきや訴えなど情報を提供し適切な医療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のDr、看護師、家族との連携を図っている。又、職員にも医療との連携や知識の習得を言い、ケアの向上が図れるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所申込時や契約時にホームの指針を話してご理解を頂いている。またその都度相談に応じている。	協力病院は、24時間診療が難しい為、利用者の安全を第一に考え、入居時に看取りが出来ないことを伝えている。継続的な医療行為が必要な場合、看護師が常勤している施設への転移をお願いしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の講習チームによる、救急対応の講習を受講した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者のもと避難訓練の実施を行っている。防災、災害の話を折りにふれ行い職員の意識を高めている。職員研修も行う予定である	昼間と夜間に避難訓練を実施している。夜間の避難訓練は、夜勤者が出勤する23時に実施している為、職員の参加が少ない。少人数で実施される夜間の避難訓練では、初期消火の大切さをあらためて認識し、再度確認を行った。	

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助時は必ず声を掛け、了解を得るようにしている。訪室時はノック、声掛けをして入室を行っている。	一人ひとりの人格を尊重した支援に努めている。意思疎通が難しく、他の利用者と一緒にレクリエーションを行うことが困難な場合は、職員がさりげなく援助し、楽しんで参加してもらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく希望や自己決定がして頂けるように問いかけている。食事のリクエストなども折に触れ聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活が送れるようだいたいの流れは決めているが、無理強いせずに、過ごして頂いている。声をかけて希望をお聞きしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が自由に楽しめる様に、見守っている。服の選択など支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個人の、出来る事が継続して行えるように行っている。自家栽培の野菜など旬なものもお出して季節的なことも取り入れている。	管理栄養士が立てた献立はあるが、利用者の要望があれば献立を変更している。朝、「今日は炊き込みご飯かな」と言われれば、昼食は炊き込みご飯にしている。また、おはぎの時期は、自宅からもち米を持ち込み手作りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態を観察し一人一人に適した量をお出ししている。水分制限の方もDrと連携し支援を行っている。嫌がる方にもお茶の種類を変えるなど工夫をし、無理なく摂取頂けるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のケアの声掛け、見守り、援助を行っている。週2回の義歯洗浄。また、入歯の調整など小まめに歯科受診や訪問歯科の要請など援助を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンの把握をし誘導や声掛けを行っている。	可能な限り、トイレでの排泄支援に努めている。複数人での支援が必要な利用者の場合、職員が協力しながら支援を行っている。夜間のみおむつを使用している利用者もいるが、日中は紙パンツに変更し、運動を兼ねトイレでの排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分補給、また医療連携で緩下剤等の処方にて対応している。その他、野菜を増やすなど食事メニューの工夫も法人との連携にて行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は概ね一日おきとし本人の希望、状態に応じて対応している。また、入浴剤などを使用したり、肌の乾燥やトラブル対策なども個別に対応している。	3日に一度入浴支援をしている。1日に入浴する人数を少人数にし、一人ひとりの要望に沿った支援をしている。着替え等が面倒に思う利用者も居るため、「名湯の湯」「足腰に良い」等、楽しんで入浴してもらえるよう声掛けを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	規制をすることなく、個々の状況・気分等に合わせた対応をおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬状況については、個々のケースに薬情を付けている。変更等あった場合には申し送りその都度新しいものを添付している。また書籍や現場などで薬剤知識の習得にも努め支援の向上を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の楽しむ事は異なるが、反応を確認して把握に努め、自ら見つけられた役割を見守っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、散歩、外出など折々に行っている。盆や正月には自宅で過ごせるように家族へ声かけ、案内を行っている	気候が良い時は、職員が付き添い事業所周辺を散歩している。春は、庭から少し小高い場所に一面に咲く桜を鑑賞している。家族付き添いの受診の際、自宅周辺をドライブすることもある。玄関の椅子に座り、足踏みして歩いているような気分を味わってもらっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症症状の進行に伴い金銭的管理や使用の判断は困難となりつつあり、基本的には職員による助言・援助等を必要に応じて行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者ご本人より希望された時に、出来る限り支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は清潔を心がけ常に点検・清掃を行っている。天気の良い日は、窓を開け解放的な環境で心地よく過ごして頂けるように心がけている。	南向きの窓からは、春には山桜など四季折々の山の景色を楽しむことが出来る。窓際に椅子を置き、日向ぼっこを楽しむ利用者もいる。また、重度化し、車いすやシルバーカーを必要とする利用者の導線を確保する為、ソファを撤去し安全に移動できる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特定の場所を決めず、思い思いの場所で心地よく過ごして頂けるように心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れたものの持ち込みをされている。ベッドの位置など快適さと安全性の両立を図るように努めている。	使い慣れた品物を持ち込んでもらい、自分らしい部屋作りに努めている。亡くなった奥様の写真とおりんを持参し、朝晩におりんを鳴らし、寝る前に話しかけている利用者もいる。居室の窓から満開の桜を眺める事が出来る利用者は、他の利用者を1人ずつ招待し花見を楽しんだ。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の認識がしやすい様に表示をしている。スペース・平床・手すりの設置等により自立が保てるように工夫されている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390900052		
法人名	医療法人 福寿会		
事業所名	グループホーム高梁		
所在地	岡山県高梁市落合町阿部2215-3		
自己評価作成日	令和4年3月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jigyosyoCd=3390900052-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile (ワンモアスマイル)		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和4年4月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく開放的で日当たりの良いリビングと、季節になればホームから山桜が見物出来たり雪景色を眺めたりと季節の変化を間近に感じられる施設です。日中は出入口は基本解放されており、コロナ禍以前は職員と共に散歩されるなど入居者ご自身のペースで過ごされておりました。そんな中、入居者の話をよく傾聴し個々のニーズに応えるよう努めています。安心と安全を考え、日常生活が落ち着いたものとなるようにケアを行っています。ホームが所謂「第二の我が家」として機能出来るよう、在宅の頃の生活の様子をご家族に伺いそれに沿える対応方法を日々検討、実践しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を共有すべく管理者、共同生活住居責任者(ユニットリーダー)、職員間で話しをして検討・改善を試みている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の業者を利用したり、運営推進委員として地域の方にも参加頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで状況を説明したり、地域ボランティアなどを受け入れ相互交流を図っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近所の方、市職員、介護相談員に参加頂き二か月一度の割合で開催の状況であったが、現在コロナ禍にて資料送付のみでの報告をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話連絡等にて意見を頂いたり、業務報告などを行い協力関係を築くようにしている。また行政への業務相談などについても適宜実施している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で設定された身体拘束委員の検討会について適宜実施中。また、ホームの施錠は行っておらず常に開放的な環境の提供をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員ミーティングなどで折々に話をしたり研修を行っている、利用者の状況変化には注意を払って観察している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員ミーティングで折りに触れ話をしたり。研修を行っている 今後、外部の研修など参加を促している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が行っており、気がついたこと、ちょっとした疑問も言って頂き説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者のしたいこと等、意見を日々お聞きしている。またご家族については面会時に話をしたり、電話連絡などを行い連絡をとっている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	責任者は日常的に話をしやすい場面を作ったり、個人面談を行い話をし、対応を行っている。その意見などを会議等で代表者へ伝えよりよい事業所運営となるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	責任者としてできる範囲内で、職員との対話等を行っている。またその内容を会議等で代表者へ伝えよりよい就業環境となるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を作り出来るだけ多くの職員に研修参加を促している。未経験者などは経験ある職員がついて現場で教えるなどOJTを行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	二か月に一度の割合で地区事業所での会議があり他事業所と交流を行い、情報交換等を行い 質の向上に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを十分に行い、直接利用者と会話をして気持ちを把握するように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、要望等を言いやすいように努めている。細かい話にも耳を傾けいい信頼関係が築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前面接時ご家族や担当のケアマネージャーともよく話し合い、サービスの利用を検討行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者、被介護者ではなく共に生活者として同じ土俵に乗るように努めており、人間対人間の関係になるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族への電話連絡時には、実状をお伝えし、支援についてご意見を伺っている。また面会、外出外泊は現在コロナ禍にてやむを得ず制限させて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	基本的に面会時間は設定されているも、以前は特に制限は設けず自由に来訪して頂いていたが、現状は制限中。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員で取り組めることは、共同作業になるように配慮している。また個別の対応もできるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来ることはさせて頂いている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や何気ない言葉や様子などから、本人の意向をくみ取るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等は入所前にある程度お聞きしているがよりご本人を理解する為、入所後も折にふれお聞きしている。又、家族からも電話による情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別のケースに日常の様子等記載している。申し送り時に個々の一日の様子を話し情報交換を行っている。。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットごとに計画作成者がケアマネジャーが本人の様子を見たり申し送り等を聞きアセスメント、モニタリングを行い作成している。定期的な話し合いの場において個別に検討を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	思いや言動をそのまま記録をしている。スタッフ会議や申し送り等、情報は共有し改善に向けて話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当ホームで、できるサービスについては柔軟な対応が行えるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源を把握するために地元職員の確保等行ったりインターネットで情報の収集を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療についてはご本人、ご家族の要望を聞きながら対応している。細かなことでも、訪問や協力病院のNsに相談し、助言を得ている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療知識の習得とともに日常の気づきや訴えなど情報を提供し適切な医療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のDr、看護師、家族との連携を図っている。又、職員にも医療との連携や知識の習得を言い、ケアの向上が図れるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所申込時や契約時にホームの指針を話してご理解を頂いている。またその都度相談に応じている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の講習チームによる、救急対応の講習を受講した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者のもと避難訓練の実施を行っている。防災、災害の話を折りにふれ行い職員の意識を高めている。職員研修も行う予定である		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助時は必ず声を掛け、了解を得るようにしている。訪室時はノック、声掛けをして入室を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく希望や自己決定がして頂けるように問いかけている。食事のリクエストなども折に触れ聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活が送れるようだいたいの流れは決めているが、無理強いせずに、過ごして頂いている。声をかけて希望をお聞きしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が自由に楽しめる様に、見守っている。服の選択など支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個人の、出来る事が継続して行えるように行っている。自家栽培の野菜など旬なものもお出しして季節的なことも取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態を観察し一人一人に適した量をお出ししている。水分制限の方もDrと連携し支援を行っている。嫌がる方にもお茶の種類を変えるなど工夫をし、無理なく摂取頂けるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のケアの声掛け、見守り、援助を行っている。週2回の義歯洗浄。 また、入歯の調整など小まめに歯科受診や訪問歯科の要請など援助を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンの把握をし誘導や声掛けを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分補給、また医療連携で緩下剤等の処方にて対応している。その他、野菜を増やすなど食事メニューの工夫も法人との連携にて行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は概ね一日おきとし本人の希望、状態に応じて対応している。また、入浴剤などを使用したり、肌の乾燥やトラブル対策なども個別に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	規制をすることなく、個々の状況・気分等に合わせた対応をおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬状況については、個々のケースに薬情を付けている。変更等あった場合には申し送りその都度新しいものを添付している。また書籍や現場などで薬剤知識の習得にも努め支援の向上を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の楽しむ事は異なるが、反応を確認して把握に努め、自ら見つけられた役割を見守っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、散歩、外出など折々に行っている。盆や正月には自宅で過ごせるように家族へ声かけ、案内を行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症症状の進行に伴い金銭的管理や使用の判断は困難となりつつあり、基本的には職員による助言・援助等を必要に応じて行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者ご本人より希望された時に、出来る限り支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は清潔を心がけ常に点検・清掃を行っている。天気の良い日は、窓を開け解放的な環境で心地よく過ごして頂けるように心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特定の場所を決めず、思い思いの場所で心地よく過ごして頂けるように心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れたのものの持ち込みをされている。ベッドの位置など快適さと安全性の両立を図るように努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の認識がしやすい様に表示をしている。スペース・平床・手すりの設置等により自立が保てるように工夫されている。		